

令和2年 TOKYO 交通安全キャンペーンの重点設定理由

○ 重点1

子供と高齢者の安全な通行の確保

【設定理由】

次代を担う子供のかげがえのない命を社会全体で交通事故から守ることが重要であるにもかかわらず、依然として道路において子供が危険にさらされていること、また、高齢歩行者の交通事故死者数が、歩行者の交通事故死者数全体の約半数を占めているため、その安全を確保する必要があること

○ 重点2

飲酒運転の根絶及び高齢運転者等の交通事故防止

【設定理由】

飲酒運転による悲惨な交通事故が依然として後を絶たないため、運転者のみならず社会全体として飲酒運転根絶の気運を高める必要があること、及び死亡事故の第一当事者の多くが自動車であり、「自動車対歩行者」の死亡事故の多くが道路横断中に発生し、このうち約7割が横断歩道横断中であることから、運転者の歩行者保護意識向上が必要であること、高齢運転者による重大交通事故が発生していることから、安全運転の確保が必要であること、

○ 重点3

自転車の交通事故防止

【設定理由】

自転車は、身近な交通手段であるが、自転車側に法令違反がある重大な交通事故が後を絶たないこと、自転車事故による死者が増加しており、特に、高齢者が自転車を運転中に事故により命を落とすケースが多発していることなどから、自転車利用者に対する交通ルール・マナーの周知徹底が必要であること

○ 重点4

二輪車の交通事故防止

【設定理由】

第十次東京都交通安全計画において「二輪車の安全対策の推進」が重点課題として定められているが、本年8月末における、二輪車（原付車含む）を当事者とする死者数が昨年同期に比べ13名増の26人にのぼり、交通事故による全死者数の約3割を占めている。また、単独事故による死者は11人（42%）と、大変多いことから、スピードを控えめにした安全運転の励行と、ヘルメット類ひもの確実な結着や胸腹部プロテクターの着用促進を図る必要があること

○ 重点5

違法駐車対策の推進

【設定理由】

路上の違法駐車は、他の車両に進路変更をさせたり、視界を妨げて危険の発見を遅らせるなど、交通事故を誘引する危険性が高く、また、交通渋滞の原因となり、緊急自動車や路線バスの通行妨害を引き起こすなど、道路交通に及ぼす影響が大きいことから、年末期の車両通行量が多くなる時期に、交通渋滞解消を図り、安全な道路交通環境を確保する必要があること